

2005年出土の木簡



(德島)

- 調査期間 二〇〇五年（平17）二月～五月

4 3 2

6 5 4 3

7 6 5 4 3

発掘機関 徳島市教育委員会

調査担当者 勝浦康守

遺跡の種類 城下町跡

7 遺跡の年代 一六世紀後半～一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

徳島城跡は、旧吉野川下流域の河成堆積にと
の低位沖積地を基盤に普請した城下町跡「徳島
城跡」

安政年間 ○に描
分絵図 島藩の主
勘解由 初代稲田
画に位置
貞祐の子

跡「徳島」を指す。調査地は安政年間（一八五四）一八六〇）に描かれた「御山下島分絵図・徳島」により、徳島藩の中老をつとめた稻田勘解由（二〇一六石六斗）の、淡路街道沿いの屋敷跡の一画に位置することがわかる。

初代稻田勘解由至政は稻田貞祐の次男吉勝の子であり、

徳島・徳島惣構跡

七
まそ
がまえ

徳島藩家老稻田種元は叔父にあたる。

調査の結果、掘立柱建物・土坑・井戸・石室・貝塚などの遺構を確認した。木簡は井戸SE三七から八点出土した。籠が遺存するところからみて、桶積み上げの井戸側と考えられるが、桶材は残存しない。出土遺物には、肥前系陶器椀・皿、土師質皿などの土器、漆器椀・蓋・箸・曲物・櫛・下駄・こまなどの木製品があり、一七世紀中葉の井戸と考えられる。

(1) □郎へ之□書也

(80) × 23 × 3 019

- （2）
・「くせつめ甚太夫

。
「大麦五斗入

(137) $\times 20 \times 3$ 033

- 〔3〕
・
「
□彦
右衛門

• 「√ 3 □□

(75) × 26 × 4 039

- （4）・「くせつめ甚□

•「大麦五斗入

(72) × 16 × 2 039

- (5)

初
門衛

157×23×6 033

- 貞祐の次男吉勝の子であり、

(6) 「▽土□

・「▽米五

(7) 「▽ 源六

・「▽小麦一斗五升三合

(8) 「▽大つ五斗入

(65)×25×2 039

(106)×19×3 033

(102)×18×3 039

すべて荷札木簡である。受取人と考えられる稻田の名前は見られないが、(2)(4)は稻田家の所領である「せつめ」(現山川町瀬詰)から荷が送られていることを示すものである。送り荷には年貢として課せられた「米」「大麦」「小麦」「大つ」(大豆)があり、阿波国における地方知行を裏付ける。(2)(4)～(6)(8)は米・大麦・小麦・大豆が五斗(明治初期まで一俵=七五kg)で納入されていることを示している。荷札木簡では米五斗の記載は一般的であり、麦や大豆などの畠や二毛田の収穫物も米と同様の五斗で扱われる。(7)の「小麦一斗五升三合」の納入量は変則的であるが、これは米の代わりに内麦として認められたもので、米年貢と米以外の雑穀納入の比率を示す一例と考えられる。

なお、木簡の釈読については、徳島市立徳島城博物館の根津寿夫氏にご教示いただいた。

(勝浦康守)



(6)



(4)



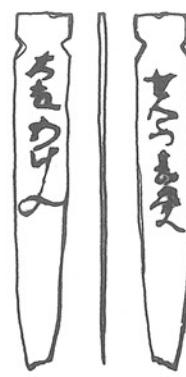
(3)



(1)



(5)



(2)



(7)



(8)